

【学年】 1年	【教科・単元など】国語「こえにだしてよもう」くじらぐも
<p>【本時目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くじらぐもに飛び乗る子どもたちの様子や気持ちを読み取る。 <p>【実践の概要と子どもたちの様子】</p> <p>「くじらぐも」は、子どもたちが小学校生活で初めて出会うファンタジー作品である。その世界をより味わうためには、自分たちが同化して物語を読む必要がある。そこで、本単元では動作化や教室環境を整えることで同化していけるよう工夫した。また、物語の世界から離れた想像の世界にならないよう、文章を根拠にしながら動作化していった。</p> <p>T「さあ、くじらぐもに飛び乗るよ！先生が物語を読むから、みんなで飛び乗ってみよう！」</p> <p>オープンスペースにつくった大きなくじらぐもの周りに子どもたちが集まり、範読に合わせて動作化しながらくじらぐもに飛び乗る。</p> <p>T「くじらぐもに乗れた？」</p> <p>C「乗れた！」「のれないよ・・・」 乗れないという声が多い。</p> <p>T「どうして、乗れなかったんだろう・・・」</p> <p>C「手をつなげていなかった」「声をだんだん大きくしていくんだよ」「“三”の時に、声をそろえなきゃいけない。気持ちを一つに」</p> <p>その後子どもたちだけで話し合いは進み、何度も飛ぶ練習をした。</p> <p>T「それでは先生が読みますので、みんなでくじらぐもに飛び乗ってみよう」</p> <p>C「天までとどけ、一、二、三！」</p> <p>T「飛び乗れましたか」</p> <p>C「乗れた！」 全員が「乗れた！」</p> <p>【知的好奇心について】</p> <p>ファンタジーは客観的な視点のままでは、「ありえない」「非現実的」なものに思えてしまうが、その世界に入り浸ることで、物語をより楽しく読み進めていくことができる。そして、その入るスイッチ（今回でいうとオープンスペースにできたくじらぐも）が知的好奇心になると考え、学習を行った。実際、座ったままの学習の中では、「どうしてくじらぐもに乗れたんだろう」「風がふいて本当に飛べるの？」などの客観的なつぶやきがあったが、動作化しながらくじらぐもに乗ることで、そのようなつぶやきをしていた子どもも物語の世界に入り込むことできていた。</p>	
<p>【子どもの様子・反省】</p> <p>教師が「本当に飛び乗ることができたのか」と問うことで、子どもたちは本文をもとに動作の仕方を話し確認し合っていた。ただ、一部分の発言が強く影響していた場面があったので、全員が一度考える時間（ワークシートに書くなど）があっても良かったと感じる。また、本単元では動作化をもとに内容を読み進める学習を一貫して行ったが、動作が目的になってしまうこともあった。あくまで動作化は読み深めるための手段であることを踏まえながら、学習を進めていく大事である。</p>	